平成30年度 播磨圏域の主な事業内容について

播磨圏域連携ビジョンに掲げる53事業中、連携した取り組みが求められる「圏域全体の経済成長のけん引」、「高次の都市機能の集積・強化」及び「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」等について平成30年度に特に連携が加速した事業について報告するもの。

- 1 圏域全体の経済成長のけん引(全19事業が実施済み又は実施中)
 - (1) 産業クラスターの形成、イノベーション実現、新規創業促進、地域の中堅企業等を核とした戦略産業の育成

ア 海外販路拡大事業

(ア) 概要

海外からバイヤーを招聘し、商談会(現場への訪問商談会を含む)を開催することで、中小企業の海外での販路開拓を支援する。

(4) 期間

平成30年11月21日(水)

(ウ) 場所

姫路市内

(工) 参加事業者数

14社(姫路市7、加西市1、宍粟市1、たつの市4、赤穂市1)

(オ) 参加バイヤー数

3名(シンガポール2名、マレーシア1名)

(力) 商談結果

商談継続中

(キ) スキルアップセミナーの開催

海外バイヤーとの商談会に向けて、事前に商談に向けての心得や準備事項など に係るセミナーを実施

開催日:平成30年10月15日(月)

(2) 地域経済の裾野拡大

ア 豊穣の国・はりま リブランディング事業 (新規)

(ア) 概要

播磨圏域連携中枢都市圏の地域ブランドである「豊穣の国・はりま」ブランドのイメージ戦略・事業展開を一貫して受け持つ責任者を配置して、現状分析・課題抽出からストーリー、キーコンセプトの再構築を図る。

(イ) ブランドコンセプト

「醸造」

※設定理由

播磨全域に広く分布し、地域の文化・風土・歴史資産との関連が強いため

(ウ) 今後の予定

醸造を中心としたブランド力を高めるために、6つの分野で構成する中長期的な 戦略である「播磨地域ブランド戦略」を策定する。

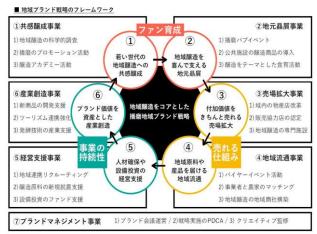




図1:播磨地域ブランド戦略イメージ

図2:ブランディング イメージ

イ 播磨ブランドラボ (ハリラボ) 事業 (新規)

(ア) 概要

播磨で活躍する経営者・作り手同士が気軽に出会い、交流し、学びあえるコミュニティを作り、圏域内の創業若手経験者などの知識・スキルの向上を図る。

(4) 実施日

平成 30 年 11 月 1 日 (木)・15 日 (木)、12 月 13 日 (木)、平成 31 年 1 月 10 日 (木)・31 日 (木)、2 月 21 日 (木) 全 6 回

(ウ) 参加者数

- ・体験講座:37 社(姫路市23、加古川市1、高砂市3、加西市1、赤穂市1、たつの市3、福崎町4、太子町1)
- ・実践講座:12社(姫路市8、高砂市1、たつの市2、稲美町1) ※有料

(五) 事業内容

自社商品の魅力向上・販売促進のための個別相談会を実施



図3:ハリラボ

ウ 播磨地域ブランドの情報発信事業

(ア) 概要

播磨地域ブランド「豊穣の国・はりま」の登録産品を中心とした播磨のブランド 食材を全国に PR する。

- (4) 実施内容
 - 料理通信への特集記事の掲載
 - あまから手帳タイアップ
 - ・ホテルグランヴィア京都、ANA クラウンプラザホテル神戸並びに大阪のダイビル 内のレストランで約1カ月の「豊穣の国・はりま」フェア(食材のマッチング商 談会を事前に実施)
 - ・ニッポン全国鍋グランプリ(1/26、1/27)で播磨圏域の物産品PRを実施



図 4:料理通信の特集記事

(3) 戦略的な観光施策

ア 訪日外国人向け体験型観光プログラムブラッシュアップ事業

(7) 概要

平成 29 年度に「訪日外国人向け体験型観光プログラムキュレーション事業」で課題分析した播磨圏域内における体験型観光プログラムのうち、訪日外国人旅行客を対象とした商品造成の実現が見込まれるものについて、旅行商品としての魅力の向上と課題解消のために必要な磨き上げを行う。

また、訪日外国人旅行客向け商品として提供可能な状態に仕上げ、体験型観光プログラムを旅行商品として旅行会社等へ提供し、インバウンド向けWeb サイト等を活用して試行的に販売する。

(イ) 進捗状況(1月以降は予定)

平成 30 年 7月 エクスペディア等オンライン旅行会社ウェブサイト上での体験型 観光プログラムの PR動画掲出(米・香港・韓国)(\sim 3月)

※兵庫県との連携事業で実施

- 9 月 インバウンド旅行商品造成の専門家による現地調査及び旅行商品 造成支援開始
- 10月 第1回体験型観光プログラム商品造成ワークショップの開催
- 11月 第2回体験型観光プログラム商品造成ワークショップの開催
- 12月 体験型観光プログラムの予約Web サイトへの登録 (商品化されたプログラムから随時登録)

平成31年1月 体験型観光プログラムの予約Web サイトでの試行販売

PRリーフレットの制作

- 2月 SNSサイト、ホテル等でのPR
- 3月 体験型観光プログラム造成等の手法や事業成果のふりかえりを目 的としたセミナーの開催











61時間*世界に一つだけ 61時間*本物の刀鍛冶見学 の刻印入り小刀づくり と小刀づくり

図5:ワークショップ

図 6: 体験メニュー販売サイト (姫路市・相生市・太子町)

イ 広域観光パンフレットの配布

- (ア) 日本語版パンフレットの配布
 - ・姫路市観光案内所、姫路市東京事務所、東京都庁観光PRコーナー、
 - 市内ホテル
 - · 高速道路 S A
 - ・各種イベント・商談会・展示会等での配布 熊本火の国まつりや、ツーリズムエキスポジャパンなど計9箇所で配布
- (イ) 外国語版パンフレットの配布
 - ・姫路市観光案内所、広島駅総合案内所、せとうちインフォメーションセンター
 - ・旅行博での配布(JNTO ブースでの配布)

マレーシア「MALAYSIA INTERNATIONAL TRAVEL MART PENANG 2018」や ベトナム「ジャパン・トラベルフェア in ハノイ」など計7か国で配布

2 高次の都市機能の集積・強化(全7事業が実施済み又は実施中)

(1) 姫路駅周辺整備事業の推進

ア コアゾーンAブロックの整備状況

(7) 計画内容 ホテルモントレ姫路

(1) 概要

都市型ホテル、商業施設及び駐車場で構成される。ホテルの施設・機能として は、全てツインルーム以上の客室を274室、宴会場、レストラン、スパ、チャペル を整備

(ウ) 進捗状況 平成30年3月23日(金)にオープン



図7:Aブロック整備

図8:Cブロック整備

イ コアゾーンCブロックの整備状況

(ア) 計画内容 健康・生きがい・キャリア開発プロジェクト

医療系専門学校、高齢者向け住宅、保育所、クリニック、フィットネスジム を計画

(ウ) 進捗状況 平成30年4月に医療系専門学校が開校、平成30年秋に、すべての施設が開業

ウ コアゾーン内の歩行者デッキの整備

(7) 計画内容

JR姫路駅からイベントゾーンをはじめとする駅東地区への歩行者動線として、 車道と交差することなく、安全で快適に移動できる 2 階レベルの歩行者空間を確 保するもの

(4) 進捗状況 官民協働により歩行者デッキを整備



図9:歩行者デッキの整備

エ JR姫路駅南駅前広場の再整備

(ア) 計画内容

北駅前広場との役割分担に配慮しつつ、安全な歩行者動線の確保や交通混雑の解消による交通結節機能の強化を図るため、平成31年春の完成を目指し、南駅前広場の再整備

(4) 概要

公共交通と一般車両の完全分離により交通混雑を解消し、一般車両の送迎スペースを増設する。

また、姫路駅正面に安全かつゆとりある歩行者空間を創出する。

(ウ) スケジュール

平成 31 年春 完成予定



図 10: JR姫路駅南駅前広場整備イメージ

オ (仮称)姫路市文化コンベンションセンターの整備

(ア) 計画内容

播磨の中核都市にふさわしい交流の拠点施設として、文化・芸術の拠点機能と「ものづくり力の強化」「地域ブランドの育成」「交流人口の増加」の促進機能をあわせ持った(仮称)姫路市文化コンベンションセンターを整備

(1) 概要

大ホール(約 2,000 席)、中ホール(約 700 席)、小ホール(約 180 席)、展示場(平 土間)(約 4,000 ㎡)、会議室(大 3 室、中 5 室、小 2 室)、その他施設(メインスタジオ (リハーサル室)、練習室、屋外展示場 等)

(ウ) スケジュール

平成 30~32 年度 建設工事 平成 33 年度 オープン予定



図 11: 文化コンベンションセンター整備イメージ

3 生活関連機能サービスの向上 (全27事業中26事業が実施済み又は実施中)

(1) 雇用促進対策総合支援事業

ア 概要

連携中枢都市圏内の企業においては、経済の好調にともない人材確保が困難となっており、企業の人手不足にともなう経済活動の低下・税収の減少を防ぐために、就職に関わる多岐にわたる人材を支援するもの。

特に就職活動を行う学生の7割が参加するインターンシップに力点をおいた事業を 実施

イ 実施内容

- ・企業等の人事担当者のインターンシップ事業
- ・保護者向けの就職セミナー
- ・現地見学ツアーの実施(東京・大阪)
- インターンシップマッチング事業
- ・インターンシップ導入研修会

ウ 参加者等

企業:51 社、参加者数:164名(一部事業は、平成30年7月豪雨の影響により中止)



図 12: 雇用促進対策総合整備事業(あっと! 姫路)

(2) 職員研修の実施

ア 技術系職員向け研修の実施

播磨圏域内の技術系職員に対して、建築建材の素材に関する知識等を学ぶための研修会を実施

(ア) 実施日

平成30年7月10日(火)、8月28日(火)、10月5日(金)

(4) 参加自治体数

12 市町(姫路市、相生市、加古川市、赤穂市、高砂市、加西市、たつの市、播 磨町、稲美町、市川町、太子町、上郡町)

イ 播磨圏域PPP/PFI推進研究会

播磨圏域内の各市町が保有する公共施設等について、効率的かつ効果的な整備等を 進めるとともに、新たな事業機会の創出や民間投資の喚起による経済成長を実現に向 けて、民間の資金や経営能力、技術的能力を活用していくことを推進するため、PF I手法などの事業手法を導入に向けての情報共有を図る

(ア) 実施日

平成30年10月18日(木)、12月19日(水)(年度内に4回程度の実施予定)

(4) 参加自治体数

8 市町(姫路市、加古川市、高砂市、加西市、たつの市、播磨町、太子町、上郡町)

ウ データ活用型公務員育成事業

事業の効果検証や新規事業の企画・立案を行う際、前提となる現状課題やニーズの 把握を行うため、様々なデータを活用するため、関連市町との連携による勉強会を実 施。

総務省のモデル事業を活用し、データ分析及び分析に基づく適正な指標の設定に向けたノウハウを習得するとともに、各市町内での人材育成ができる手法を確立する。

(ア) 実施日

平成30年10月9日(火)、11月27日(火)、12月7日(金)、1月18日(金)

(4) 参加自治体数

10 市町(姫路市、相生市、加古川市、赤穂市、高砂市、たつの市、稲美町、播 磨町、太子町、上郡町)

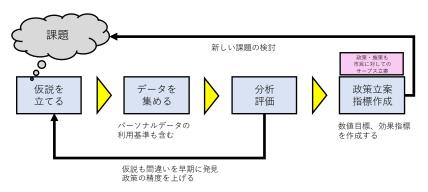


図13:データを活用した政策立案イメージ

4 地方創生推進交付金を活用した連携事業

(1) はりまクラスター型サイクルスタイル構築事業

ア 概要

播磨圏域連携中枢都市圏域各市町の公共交通機関から自転車で観光地までをつなぎ、 自転車を使った二次交通の利用を促進し、広域観光を推進(平成 28~30 年度)

イ 平成30年度事業内容

(7) 播磨地域の木材を利用したサイクルラックの設置

播磨地域の木材を使用し、兵庫県立山崎高等学校、兵庫県立龍野北高校がデザインしたサイクルラックを作成し、新たに播磨圏域内の施設に順次設置

設置箇所: 姫路市3、相生市1、高砂市2、加西市7、宍栗市1、たつの市4、 稲美町1、市川町5、福崎町1、神河町4、太子町3、上郡町6、 佐用町2 計40箇所

(4) はりま周遊スタンプラリーの実施

圏域内の回遊性を向上させるため、圏域内の各市町に

ポイントを設定したスタンプラリーを実施

設置箇所:16箇所(圏域の8市8町で1箇所ずつ)

(ウ) サイクルマップ・PR動画の作成

播磨圏域内のサイクルルートをまとめたマップや、ルートのPR動画を作成マップ印刷数:20,000 部

動画: 姫路市の youtube チャンネルで配信

(エ) 情報発信の実施

播磨圏域の自転車観光をPRするために、民間が実施する大規模イベントに出展 イベント名: CYCLE MODE

出展日:① 平成30年11月9日(金)から11日(日)まで

② 平成31年3月2日(土)、3日(日)

場 所:① 幕張メッセ (千葉県千葉市)

② 万博記念講演 (大阪府吹田市)



図 14:サイクルラック



図 15: サイクルマップ、動画

(2) 姫路・石巻縁推進事業

ア 概要

東日本大震災復興を契機に交流が深まっている宮城県石巻市と、播磨圏域並びに石 巻市の名産品(地酒・海産物・菓子等)物産フェアの実施・共同PRを行い、圏域の 名産品の販路拡大、魅力発信を図る。

イ フェアの実施

(7) 実施場所

イオンモールりんくう泉南店(大阪府泉佐野市)

(4) 実施予定日

平成 31 年 3 月 22 日 (金) ~24 日 (日)

(ウ) フェア商品の商談会

フェアの実施及びイオンでの商品の取り扱いにつなげるため、商談会を実施 参加事業者:8事業者(姫路市4、相生市1、高砂市1、たつの市1、佐用町1)

(3) 民間交流からはじまるインドネシアおともだちプロジェクト

ア 概要

近年経済成長著しく、今後20年間で中間富裕層が爆発的に増えることが予想されているインドネシア共和国に対して、交通事業者、教育機関、自転車愛好家など民間での交流が始まっているが、播磨地域へ旅行客は多くない状況にある。

そこで、播磨地域の多様な観光資源(自転車観光やスキー場など)を活かしたインドネシア共和国からの誘客促進事業を展開するとともに文化、教育、観光、産業など多方面からの交流を推進することにより、インドネシア人にとって播磨地域をメジャーな訪問先に磨き上げることを目指すもの。

イ 平成30年度事業内容

(ア) ムスリムフレンドリー講習会の開催

飲食店に対しムスリム対応に向けて知識を高めるための講習会を開催

実施日:① 平成30年8月7日(火) 姫路信用金庫駅前支店(姫路市)

- ② 平成 31 年 1 月 22 日 (火) 姫路信用金庫駅前支店 (姫路市)
- ③ 平成31年2月6日(水) 姫路信用金庫加古川支店(加古川市)

講 師:① フードダイバーシティ 代表 守護彰浩氏

- ② 日本食レストラン祭 オーナー 佐野嘉紀氏
- ③ 一般社団法人ハラル・ジャパン協会 代表理事 佐久間朋宏
- (4) 飲食店に対するムスリム対応への助言・指導

ムスリム向けのおもてなしマニュアルの作成や、ムスリム対応を希望する飲食店に対して、個別訪問し、ムスリム対応メニューや祈祷室などに係る助言や指導を行う。

新たにムスリム対応をはじめた飲食店:2店舗

- (ウ) インドネシア国内での PR
 - ・ガルーダ・トラベルフェアへの出展 $(10 月 5 日 \sim 7 日)$
 - ・ジャパン・トラベル・フェアへの出展 $(10 月 12 日 \sim 14 日)$
 - ・商談会への参画(ジャカルタ、スバラヤ、メダン:10月15日~18日)
 - ジャパン・トラベル・フェアへの出展(3月予定)
- (エ) メディア向けファムトリップの実施

実 施 日:平成30年10月14日(日)~17日(水)

訪問箇所:播磨圏域内(インドネシア人に訴求力のある観光素材を中心に選定)

参加者:インドネシア国内のメディア関係者、現地旅行事業者17名







図 16: ムスリム対応メニュー

図 17: インドネシア国内での PR 図 18: インドネシア人のファムトリップ

(4) 酒米の王様・山田錦を擁する日本酒のふるさとはりまプロジェクト

ア 概要

播磨は酒米の王様「山田錦」の生産地であることや、豊かな自然が生み出す名水により、多くの酒蔵が集まる酒造りの地の一つである。

これらの資源と他の様々な産品を活用し、播磨地域ブランド「豊穣の国・はりま」を立ち上げ、全国に向けて発信しているところであるが、それに加えてはりまの酒の特性を活かした新商品開発や、播磨に古くからある酒、味噌、醤油の麹文化の観点からの播磨の歴史の研究など、文化・教育を含め多角的に官民連携で取り組み、はりまの地酒のブランドカの強化を図るもの。

イ 平成30年度事業内容

(ア) 播磨日本酒ガイドブックの作成

内 容:播磨圏域の日本酒の特徴などをまとめた冊子の作成

作成数:10,000部

(イ) 播磨の新酒列車の運行

内 容:山陽電鉄山陽姫路駅から山陽明石駅間の往復で、播磨の日本酒と特産品 を味わう特別列車の運行を行う。

日 時: 平成31年3月2日(土)

(ウ) 全国酒まつり in 姫路城

内 容:播磨圏域内の酒蔵等のお酒と兵庫県産山田錦を使った全国のお酒の飲み 比ベイベントの実施

期 間: 平成31年1月26日(土)

場 所:大手前公園西側グリーンゾーン (姫路市)

(エ) 国外の旅行業関係者、海外ブロガー等のファムトリップの実施

内 容:国内外での播磨の日本酒の認知度向上を目的にファムトリップの実施

実施日:① 平成30年9月30日(日)~10月2日(火)

② 平成 31 年 2 月 21 日 (木) ~23 日 (土)

訪問先:播磨圏域内の酒蔵及び観光資源

参加者:① メディア関係者・インフルエンサー

② 日本酒の有識者 計6名程度

(オ) 麹文化の研究事業

播磨圏域の味噌・醤油・日本酒などの麹文化に関しての研究を行う。

成果物:麹に関係する組合(醤油・日本酒など)、兵庫県立大学・東京農業大学 などの協力のもと、播磨圏域の麹文化をまとめた冊子を作成予定







図 19:日本酒ガイドブック

図 20、21:ファムトリップの実施

5 民間事業者との包括連携協定の締結について

(1) イオン株式会社(イオンリテール、イオンモール、山陽マルナカ、マックスバリュ西日本を含む)

ア 締結日

平成29年5月26日(金)

イ 連携事業

- (ア) イオンモールりんくう泉南店でフェアの実施 (平成31年3月23日(土)から25日(月)まで) フェアの実施及びイオンでの商品の取り扱いにつなげるため、商談会を実施 (平成31年1月31日 実施)
- (4) 未来屋書店での「はりま読本」の販売(2月15日から)
- (ウ) 各種イベント会場の提供や行政情報の発信・PR
- (エ) 圏域内のイオンモール、マックスバリュでの振り込み詐欺防止の取り組み



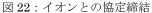




図23:イオンでのフェア(昨年度実施時)

(2) 三井住友銀行・みなと銀行

ア 締結日

平成 29 年 6 月 12 日(月)

イ 連携事業

- (ア) 各市町等の課題解決に向けた、マッチング事業の実施(三井住友銀行)
- (4) 行政職員向けの研修会の実施(経済動向)(三井住友銀行)
- (ウ) 播磨圏域の市町へ移住する際のローン商品の販売(みなと銀行)



図 24: 三井住友銀行・みなと銀行との協定締結



図 25: 播磨への移住ローン